

●表紙イラスト
鶴田 一郎 (1954年 本渡市生まれ)



県立天草高校を経て、多摩美術大学グラフィック・デザイン科へ進む。卒業と同時に、フリーのイラストレーターとして、SFやミステリー小説の表紙やレコードジャケットなど堅実な制作を続けてきた。数年前より美人画を手がけ、昨年の春、化粧品会社ノビアのポスターで一躍関光を浴びる。

表紙のことは

この度、突然の表紙イラストの依頼にビックリするやら、ドギマギするやら…と、思う間もなく1回目のメ切りとなってしまう。イラストレーターとして、まだまだ実力不足・キャリア不足の私ですが、熊本県出身ということで白羽の矢を立てていただいた光栄に、少しでも応えられればと思っています。

県の顔としての広報誌の表紙に私の絵がマッチするかどうか、不安な気持ちもあるのですが従来の広報誌のイメージに何か新しい風を送りこめれば幸いです。

今回は、毎年夏休みの帰省の時、熊本からのバスの中で「ああ天草に帰って来たんだなあ」との感慨と、「故郷とはいったい自分にとって何なのだろう」との多少哲学的な思いを起させてくれる、天草松島あたりの風景をイメージして描いてみました。

●シーン'88 撮影
神原 陽一

編集後記

初夏の阿蘇に咲く薄紫の可憐な花、「はなしのふ」。その美しさに魅せられた人々によってこの花が紹介され、音楽が作られ、野の花たちのための音楽会が始められたのは、もう七年も前のことです。

今年もまた、はなしのふの花が咲く季節となり、その盛りの六月最後の日曜日(26日)に南阿蘇「野草園」で「はなしのふコンサート」が開かれます。

阿蘇の野の花や鳥たちに捧げられるこの小さな音楽会に是非一度足を運んでみませんか。

地域指定から5年目を迎えた熊本テクノポリス。順調に発展し、全国25地域の中でも優等生として注目されています。国内・外の情勢が厳しい中、熊本が21世紀に向けて一層飛躍するため、テクノポリスは益々重要になってくるのではないのでしょうか。

今回ご紹介した「熊大地域共同研究センター」は、産・学・行政が一体となったテクノポリスの推進にさらに弾みをつけることでしよう。

今後も、長期的な視点に立った着実な歩みを期待したいですね。

カメラでとらえた新しい「くまもと」を紹介する「シーン'88」。今年度はテーマを「水」に絞り一年間お送りする予定です。カメラマンの感性にご期待ください。

次回「特集—くまもとの水」
ご期待下さい。

TKU 「フラッシュくまもと」

毎週土曜日 12:55▶13:00

テレビ熊本 制作部

キャスター 勝田麻吏江

「フラッシュくまもと」は、皆さんの生の声と県内の動きをわかりやすくお届けする番組です。気軽に見て頂ける番組づくりを心がけています。五分間ですが、様々な話題を追って県内98市町村に直接お伺いします。あなたの町の楽しい話題を笑顔と共に紹介してみませんか。

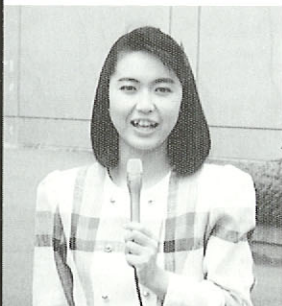


KKT 「いきいきくまもと」

毎週日曜日 8:30▶8:45

熊本県民テレビ 報道制作部 キャスター 高橋久美子

自然と文化と伝統が溶けあった熊本が好きです。PRがへたで不器用、素朴な熊本県人も大好きです。熊本のすばらしさを多くの人に知ってもらいたい。それにはまず、住んでいる私たちが熊本を理解しなくてはね。大きな目を見開いて集めた県内の情報をくまなくお届けします。眠いなんて言わないで。貴方のもとへ飛んで参ります。



RKK 「くまもと21」●テレビ

毎週日曜日 11:00▶11:15

「ふれあい くまもと」●ラジオ

月～土曜日 7:40▶7:45

熊本放送

キャスター 西谷裕子

いつも新鮮な驚きでいっぱい西谷裕子です。番組は、私にとっても役に立つ情報や内容が盛りだくさん。これからも体力にものを言わせて、もっと歩き、もっと色々なものと触れ合って生き生きした番組を作っていきたいと思ひます。今、熊本県は面白い!! これからも御期待下さい。



FMK 「県庁ダイアリー」

月曜～金曜日 7:30▶7:36

FM中九州 キャスター 伊井純子

県内で活躍中のあなたが主役のインタビューコーナー「頑張ってます、はつらつ人・仲間」をはじめ、県政や観光やイベントなど。知りたいことを、解り易く新鮮なうちにお届けします。FMKからの「新しい風」—「県庁ダイアリー」で爽やかに目覚め下さい。お相手はFMKの突撃レポーター伊井純子です。



●広報メディアMIX
お届けします!!
ホットで楽しい情報

「5月に、考える」

金子邦博 (33才 会社員/城南町)

先日、子供を連れて甲佐の河川敷公園に行ってきました。菜の花、レンゲ、白ツメ草など春の色・春の香で溢れていました。子供たちは久々に味わう自然を満喫



していたようです。私は楽しそうに遊ぶ子供たちを眺めながら、レンゲ畑に横になっていました。どこからか雲雀の声が聞こえてきます。天使のおしやべりのよ

うなその声は、私か小さい頃よく耳にしたもので、無邪気だった頃を思い出させます。私が熊本に引越してきたのは九才の頃。それまでは福岡県の二日市市に住んでいました。父の会社の社宅は山を切り拓いた造成地にあり自然に恵まれたところで、



木の実を採ったり山芋を掘ったり、川では手づかみで魚を捕ったりと、子供が遊ぶには最高の所でした。ケガをしてもヨモギを揉んで傷にしばらく当て、血止めをするだけで、また遊びつづけたたくましいワンパク坊主だったものです。どんな環境にあっても子供はたくましく育っていくのだと信じていますが、やはり自然の中で遊び生活していくのが理想だと思います。五月晴れの空には爽やかな風をいっぱいを受けた鯉のぼりが元気よく泳いでいます。我が子の健やかな成長を願う鯉のぼりが立っている家が年々少なくなっています。「私たち大人は本当に子供たちのことを考えているのだろうか」という思いが胸をよぎります。

「第二の人生」

古田 照男 (60才 無職/八代市)

桜の季節も過ぎ、早、夏の気配さえ感じられるこの頃。ぬけるような青空の下、爽やかな風が麦畑を渡ってきます。三月に定年を迎えた身には、この自然がとりわけ眩しく、かけがえのないものを感じられてなりません。近くの公園まで足を運んで、新緑のみずみずしさ、若々しさに目を細め、白い雲や花々の美しさに時の経つのも忘れていきます。戦時中の勤務奉仕から数えて四十数年間、唯がむしらに仕事をやってきました。常に自然の美しさを慈しみ、感動する心を持ち続けてきたつもりですが、



仕事に追われ、つい見落としていたものも多かったのかもしれませんが、何者にも束縛されない自由な時間に戸惑いを感じながらも、それを満喫している毎日です。定年後も非常勤として会社に残らないかという、ありがたい言葉もかけていた

HOTLINE

街角便り

だいたのですが、自分にとっては人生の大きな区切りであると思い、辞退しました。第二の人生のスタートなどと言えば少しキザかもしれませんが、ずっと続けてきた仕事を離れ、何か新しい物に挑戦することで、これまでとは違った人生を生きてみたかったのです。現場一筋で通してきた私に、どれ位の事ができるのかわかりませんが、何とかもうひと頑張りしてみようと思っています。人生八十年の時代。余生と呼ぶには、あまりにも長い時間が残されています。体力や気力も、まだまだ充分に残っています。じっくりと腰を据えて、打ち込める物を捜していくつもりです。

短夜や既に根つきし物の苗 石井 露月
すべてが若々しく美しいこの季節、新しい大地に早く新しい根を下ろしたいと願っている毎日です。

「季節の中で」

河上 和子 (28才 主婦/熊本市)



青葉が日々々に照り映え、目にするものすべてに明るいつわが春の初夏。新しく袖を通す夏服、店先に並ぶ果物、夏用の化粧品…。毎年同じ繰り返しの中にも、新しい出会いがあります。「いいお天気ですね」「降りますね」と言っっては近所の人と立ち話をし、洗濯物の乾き具合の心配や子供の寝相の話まで、とめどなく話は続きます。会話のきっかけとして、季節の話は意外に重宝なものです。季節感というのは、同じ土地に暮らす人々の共通の皮膚感覚とも言えるでしょう。四季おりおりの歌を詠み、花鳥風月に親しむ風流人とまではいかなくとも、季節の移り変わりに目を開き耳を傾けることは、台所でも庭先でもできます。人それぞれ感じ方は違っていますが、何かを感じて「いよいよです



ね」とうなずき合えるのが季節感の面白さだと思います。やがて梅雨。雨ばかりでうとうとしい季節がやって来ますが、そんな中にも晴れ間の嬉しさや雨に洗われた緑の美しさを味わうことができます。その時々なりの楽しみが季節の中にはたくさん溢れています。

お便り募集!

みなさんの身近な情報(出来事・季節の変化・風景・感想など)を二百～四百字程度にまとめてお送りください。(採用された方には「風時計」をプレゼント)

●あて先

〒862 熊本市水前寺6丁目18-1
熊本県広報課「くまもとの風」係

たくさんのお便りをお待ちしています。